

## 巻 頭 言

### 敢えて問う、「消えてはいけない」学会の役割と責任とは？

一般社団法人日本社会福祉学会 副会長 黒木 保博（同志社大学）

日本社会福祉学会に入会して40年以上の年月が経過した。これまでに全国大会等で数多くの先生方にお目にかかることができた。大学院生の頃は、胸にあるネームカードのお名前を拝見し、あの先生だ！と名前と顔の一致を大いに喜んでいた。年に1度の全国大会であったが、講演や分科会発表等から研究上の知的刺激・情報発信を受け取るには十分であった。最近の大学院生達はどうか？学会活動に参加する魅力は何であろうか。

この間に学会事務局の変遷もあった。1974年頃から76年にかけて、学会事務局のアルバイトをした。ちょうど会員数が1,000人を越えた頃である。理事会は、担当理事の所属大学での持ち回り事務局業務は難しくなったと判断した。大学ではなく、全社協に事務局が移転することになった。風呂敷に包んだ書類をもって上京し、事務局引き継ぎを済ませた。その後、事務局は全社協から四谷に移った。1998年、さらに四谷駅近くのビルの一室に、日本社会事業学校連盟と共同事務所を設置した。実は、この当時、私は学校連盟事務局長をしていた。加盟校の急激な増加が始まり、かつ社団法人化を目指すことから、大学持ち回り事務局では限界ありと理事会が判断した。東京に固定な事務所を設置することになったが、まだ財政基盤が安定していない学校連盟は学会に無理をお願いして、契約更新時期よりも早めに移転してもらった。「私と学会事務所とはなんという巡り合わせか」と思った。

今日、学会発足から63年を迎えている。会員数は一時5,000人を越えたが、今なお約4,800人を擁する学会に成長した。安定した財政基盤と、着実に「継続」活動ができる学会になったのは、この間の会長、理事、監事、事務局担当者等の皆さんの尽力の結果である。時代の影響を受け、幾多の運営問題に直面しつつも、叡智を集めて、発展してきたからである。先人達の学会活動に対する「思い」を今一度深く振り返り、感謝したい。

ところで、敢えて問いたい。会員の皆さんは、何のために学会会員になり、学会活動から何を得ているのであろうか。学会に期待する役割、責任は何であろうか？

ご存じのように学会には三つの役割と責任が必要である。第一には、学会＝学術団体の役割が必要である。「場」の提供である。知的好奇心に基づき研究者や実践者の研究・実践発表、情報・意見の交換、蓄積を実現する「場」である。また「成果」発表も提供してきた。研究発表や討論、そして機関誌を通じた成果発表の「場」を実現する責任がある。

第二には、専門職団体という役割もある。医学や工学等の理系分野学会をみていると、学会が専門家育成の場として機能している。しかし、社会福祉分野の場合、国家資格との関連で専門職団体が創設され、専門家育成の主な機能を果たしている。かつ専

専門職団体が独自の学会を創立している場合もある。この4月に教育系3団体が法人合併し、社会福祉学教育・社会福祉専門職養成教育の内容充実と振興をめざす日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）が創立された。とはいえ、これまでと同様に、学会には強い連携や期待が求められている。かつ、将来の研究者・専門家をめざす大学院生の教育・研究は、一大学だけにとどまらず、学会として取り組むべき重要な活動である。

第三の役割と責任には、学会には社会的貢献する役割が必要とされる。学会外となる行政、社会等への活動や働きかけである。社会の代弁者、助言者の役割を果たす窓口となり、発言力を増やすことが重要である。特に会員の意見をまとめて、それを学会として内外に反映させることは重要な役割と責任であると思われる。

しかしながら、ここに至って、過去と現在の役割と責任、具体的活動の継続的展開に大きく立ちほだかる状況が出現している。IT化・グローバル化社会の到来である。全国大会、分科会、機関誌等で果たしてきた研究や実践に関する情報収集・発信、研究成果発表等において、学会の優位性が「消えつつ」あると言えるのではないか。安く、早く、簡単にインターネットによる多様なコミュニケーションチャンネルを使って、直接に世界中の情報収集・情報発信が可能な社会になったからである。学会が果たした仲介者・代弁者的窓口役割も「消えつつ」あるといえる。つまり、先に挙げた学会の重要な役割と責任からは、学会に入会し、所属し、活動する意義や必要性をあまり感じなくなってくるのではないかと思われる。それ以上に学会の「核」となる大学院進学者が全国的にも減少している実態からは、魅力ない分野の「消えてもよい学会」になってくるのではないかと杞憂される。福祉系学部・学科の減少も大いに気になる。学会が知的刺激や好奇心を満たしてくれる存在として維持されるためにも、IT化・グローバル化社会における学会の役割と責任を考え直す必要がある。「消えてはいけない」学会にしておかねばならない。会員の積極的発言を期待したい。